

令和 2 年 5 月 13 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K12275

研究課題名(和文) EOLシミュレーション教育の教育効果の評価とシナリオの発展に関する研究

研究課題名(英文) Evaluation of the EOL care simulation for undergraduate nursing students and its prospect for wider implementation

研究代表者

玉木 朋子 (Tamaki, Tomoko)

三重大学・医学系研究科・講師

研究者番号：60755768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：開発したEnd-of-life (EOL)ケアシミュレーション教育を看護大学生に実施し、その学習効果を量的・質的に評価することを目的とした。教育背景の違う2校にEOLケアシミュレーションを実施し、知識テスト、OSCEによる身体的アセスメント技術と心理的ケア技術、レジリエンス、自信をアウトカムに無作為化比較試験にて評価した。

さらに、教育背景の違いによる教育効果の比較をおこなった。結果、EOLケアシミュレーションは教育背景が違う看護大学生においても同程度の効果をはっきりと示した。質的評価の結果、EOLケアシミュレーション教育に参加した2校の学生は同様の学びや体験が可能であることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EOLケアは看護基礎教育において臨地実習で経験することが難しい。よって補完的な学習手段としてEOLケアをシミュレーション教育により教授し、その教育効果をあきらかにすることで、EOLケアに必要な学習目標を達成できる教育法として発展させることが期待できる。研究成果をもとに、様々なEOLの患者の状況や場面を採用し、シナリオを発展させることで、超高齢社会の時代に看護学生が卒後に必ず直面する死にゆく患者に対する看護を提供するための知識や技術、自信の獲得に貢献し、終末期看護の基礎教育に新しい教育方法の可能性を提案することに意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study evaluate the effectiveness of the developed end-of-life (EOL) care simulation via a 3-year randomized controlled trial and qualitative analysis. The study participants were evaluated before and after program, on their knowledge, skill performance (by OSCE) and self-confidence about EOL care. We recruited participants from two universities. The findings of this study indicated that nursing students' knowledge, skill performance, and self-confidence related to EOL care were significantly improved after training with the EOL care simulation, regardless of their different educational settings. Also, participants from different educational backgrounds can expect to gain the same experience from participating in EOL care simulation.

研究分野：成人看護学

キーワード：看護教育 シミュレーション教育 終末期ケア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護師は終末期患者と多くの時間を患者と過ごす (Moreland et al. 2012) と言われており、実際に看護師は患者だけではなく家族も含めて終末期のケアをおこなう中心的な役割を担っている。しかし、看護基礎教育において、臨地実習で終末期にある患者を受け持つ機会が少なく、終末期ケアは事例やロールプレイングなどを用いて学習されていることが多い。本来、臨地実習で終末期にある患者の看護を体験することが理想的だが、終末期の患者は身体的・心理的状況が複雑であり慎重なケアが考慮されるため、それを実現することは現実的ではないことが指摘されており (Katharine F et al. 2014) 学生が実習で受け持つ機会が制限されているのが現状である。そのような状況の下、日本では、厚生労働省が「看護教育の内容及方法に関する検討会報告書」で「臨地実習で経験できない内容は、シミュレーション等により学内での演習で補完する等の工夫が求められる」と「シミュレーション教育」の活用についてはじめて明記し (厚生労働省, 2011), シミュレーション教育が新たな教育手法として注目され始めた。文部科学省も看護系大学における看護基礎教育において End of Life (以下、EOL) ケアについて終末期の看護を経験しなくとも他の学生の体験や看護職者の体験を共有することで追体験的に学べるような教育的な工夫の必要性を提唱している。効果的な追体験学習の基盤として卒前教育のなかで臨地実習で経験できない項目を補完することが求められており、学生が終末期看護を効果的に習得できる教育手法が求められている。日本の先行研究を概観すると、終末期ケアにおいてシミュレーション教育を実施・評価した研究は数少ない。また、無作為化比較試験により有効性を検討した先行研究もほとんどない。終末期患者に対する看護ケアは、対象がおかれている複雑な状況を考慮すると 1 つ 1 つのコミュニケーションやケアは慎重におこなわれる必要があり、看護大学生が臨床に出る前に、EOL ケアを体験する機会を提供することには大きな意義があると考えた。

2. 研究の目的

開発した EOL ケアシミュレーション教育の効果を知識、自信の変化、レジリエンスへの影響という側面から評価するとともに、臨床的技能試験 (OSCE) により技術においても教育前後で比較、評価することを目的とした。また、参加学生の振り返り用紙の記載から、EOL ケアシミュレーション教育により得られた具体的な学びや、体験、シナリオの改善が必要な点について質的帰納的に分析し、明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 学内の掲示板にポスターを貼付し、参加希望者を募った。参加希望した学生を教育群と対照群の 2 群に無作為に割付け、教育群への介入前に両群の基本情報や各種アウトカムの測定をおこなった (図 1 参照)。各種アウトカムの群内、群間比較をおこない、教育効果を検討した。また、シミュレーション参加後の振り返り用紙から、学生が EOL ケアシミュレーションに参加して得られた体験や学びを質的に分析して抽出した。

(2) 教育背景の違う大学においても参加者を募り、EOL ケアシミュレーションを実施、上記と同様の評価をおこなった。大学間での結果の類似性や差異を比較・評価した。

4. 研究成果

開発した EOL ケアシミュレーション教育は、知識、技術、自信の獲得に有効であることがわかった。また、看護大学 2 校で実施した結果、教育背景が違っていても EOL シミュレーションに参加することで、知識、技術、自信について同程度の上昇、改善をもたらすことをあきらかにした (図 2 参照)。EOL ケアシミュレーションに参加した学生のレジリエンスの向上に寄与することも示唆された。本結果は国内の学術誌 (日本看護科学学会誌、日本緩和医療学会誌) と国外の学術誌 (Nurse Education Today) に掲載された。本研究は日本私立系大学協会看護学研究奨励賞を受賞した。また、2017 年度～2019 年度の研究期間中、継続的に研究成果を国内外の関連学会で発表した。2019 年度は日本看護科学学会で交流集会をおこない、参加者から好評を得た。22rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会) で成果発表をおこない、Best poster presentation Finalist Award を受賞した。以上の成果から鑑みて、本研究で取り組んだ EOL ケアシミュレーション教育の開発と評価は国内外から高い関心を得ることができたと考える。今後は看護基礎教育への適用に向けたプログラムに発展するように取り組んでいく予定である。

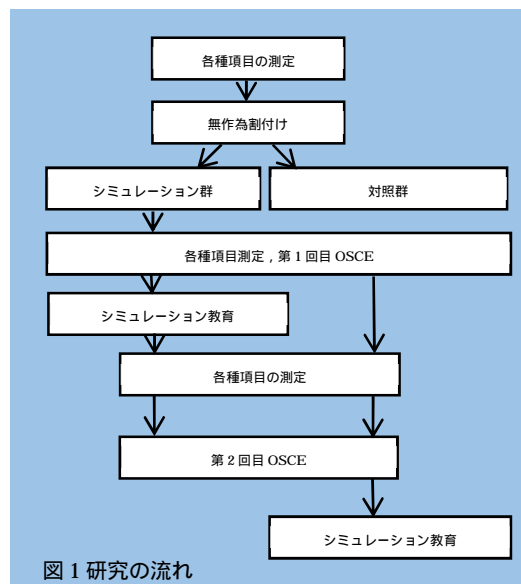


図 1 研究の流れ

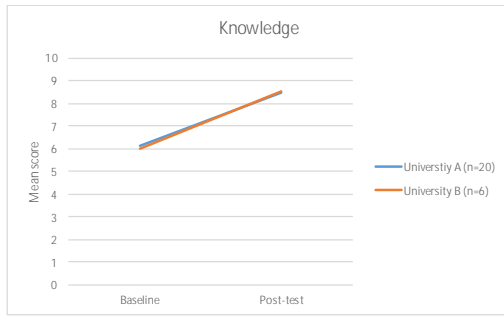


図2 EOL ケアシミュレーション参加前後の知識テストと OSCE のスコアの変化 (2 校データ)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 犬丸杏里、玉木朋子、横井弓枝、富田真由、藤井誠、辻川真弓	4. 巻 13
2. 論文標題 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの評価－振り返り用紙による検討－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本緩和医療学会誌	6. 最初と最後の頁 181～186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.2512/jspm.13.181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tamaki Tomoko, Inumaru Anri, Yokoi Yumie, Fujii Makoto, Tomita Mayu, Inoue Yuta, Kido Michiko, Ohno Yuko, Tsujikawa Mayumi	4. 巻 76
2. 論文標題 The effectiveness of end-of-life care simulation in undergraduate nursing education: A randomized controlled trial	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nurse Education Today	6. 最初と最後の頁 1～7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.1016/j.nedt.2019.01.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 玉木朋子、犬丸 杏里、横井 弓枝、富田 真由、木戸 倫子、大野 ゆう子、辻川 真弓	4. 巻 37
2. 論文標題 看護基礎教育における終末期ケアシミュレーションシナリオの開発と評価：フロー体験チェックリストを用いた無作為化比較試験による検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 408～416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.37.408	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 玉木 朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、藤井誠、井上勇太、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
2. 発表標題 模擬患者と協働した終末期ケアシミュレーション教育の評価：無作為化比較試験による検討
3. 学会等名 第31回日本サイコオンコロジー学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 玉木 朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、藤井誠、井上勇太、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
2. 発表標題 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの教育効果の評価：2施設における実施結果の比較
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 犬丸杏里、玉木朋子、横井弓枝、藤井誠、井上勇太、辻川真弓
2. 発表標題 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの評価－振り返り用紙による質的検討（第3報）－
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横井弓枝、玉木朋子、犬丸杏里、藤井誠、井上勇太、辻川真弓
2. 発表標題 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの評価－Resilience測定による量的検討（第2報）－
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤井誠、玉木朋子、犬丸杏里、横井弓枝、井上勇太、大野ゆう子、辻川真弓
2. 発表標題 看護大学生を対象とした終末期ケアシミュレーションの評価－OSCE評価者における評価者間信頼性の検討
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Tamaki, Anri Inumaru, Yumie Yokoi, Makoto Fujii, Yuta Inoue, Michiko Kido, Yuko Ohno, Mayumi Tsujikawa
2. 発表標題 Impact of end-of-life care simulation for undergraduate nursing students: results from a multisite university implementation in Japan
3. 学会等名 EAFONS 22nd (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto fujii, Tomoko Tamaki, Anri Inumaru, Yumie Yokoi, Yuta Inoue, Yuko Ohno, Mayumi Tsujikawa
2. 発表標題 Development and evaluation of terminal care simulation scinario for nursing students: Examination of reliability between evaluators in the objective structured clinical examination in a randomized controlled trial
3. 学会等名 EAFONS 22nd (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉木 朋子、犬丸杏里、横井弓枝、富田真由、藤井誠、井上勇太、木戸倫子、大野ゆう子、辻川真弓
2. 発表標題 End of Life ケアシミュレーションの無作為化比較試験による教育効果の評価ー知識テストとOSCEによる検討ー
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 犬丸杏里、玉木朋子、横井弓枝、富田真由、辻川真弓
2. 発表標題 End of Life 看護シミュレーション教育の評価ー振り返り用紙による検討ー (第2報) -
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 玉木朋子, 横井弓枝, 犬丸杏里, 藤井誠, 木戸倫子, 大野ゆう子, 辻川真弓
2. 発表標題 シミュレーション教育で知識・技術・自信の向上を目指す～End of lifeケア教育への導入を例として～(交流集会)
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomoko Tamaki, Yumie Yokoi, Anri Inumaru, Makoto Fujii, Yuko Ohno, Mayumi Tsujikawa
2. 発表標題 Development and evaluation of an end-of-life care simulation for undergraduate nursing students, and its prospects for wider implementation
3. 学会等名 23rd East Asian Forum of nursing scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	辻川 真弓 (TSUJIKAWA Mayumi) (40249355)	三重大学・医学系研究科・教授 (14101)	
研究分担者	黒澤 杏里 (犬丸杏里) (INUMARU Anri) (60594413)	三重大学・医学系研究科・助教 (14101)	
研究分担者	横井 弓枝 (YOKOI Yumie) (40740428)	東邦大学・看護学部・助教 (32661)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 誠 (FUJII Makoto) (10803760)	神戸女子大学・看護学部・助教 (34511)	
研究分担者	大野 ゆう子 (OHNO Yuko) (60183026)	大阪大学・医学系研究科・教授 (14401)	
研究分担者	木戸 倫子 (KIDO Michiko) (00706913)	大阪大学・医学系研究科・助教 (14401)	
研究分担者	宮嶋 正子 (MIYAZIMA Masako) (40461181)	武庫川女子大学・看護学部・教授 (34517)	
研究分担者	池田 七衣 (IKEDA Nanae) (80584549)	武庫川女子大学・看護学部・准教授 (34517)	
研究協力者	井上 勇太 (INOUE Yuta)		